



ひょうごの 赤十字

Contents

特集

NHK海外たすけあい

● 私たちの想い、伝わって願って

Close-up 赤十字

● 地域住民が自分たちで健康を守れるように

Seminar/Guidance

● 万一の災害に備えて

● 青少年赤十字提供プログラムに取り組んでいた学校

● 多可赤十字病院の検査装置が新しくなりました

● 講習のご案内

12月に青少年赤十字提供プログラムに取り組んでいた学校

神戸市立有野北中学校、高砂市立高砂小学校、高砂市立北浜小学校、兵庫県立伊川谷高等学校、兵庫県立星稜高等学校、神戸市立福住小学校 (実施日順)

補助事業



多可赤十字病院の検査装置が新しくなりました

～平成22年度『競輪』補助事業～

この度、平成22年度『競輪』補助事業により、生化学自動分析装置を更新しました。

新しく導入した装置は「東芝製 TBA-120FR」で、高速で精密な分析処理能力を持っています。このため、肝・腎機能をはじめとする内科的疾患や手術後の状態管理、また、炎症の程度など詳しい経過観察に加え人間ドック・メタボ健診などにも大いに役立つものと考えております。

多可赤十字病院は、多可郡唯一の公的医療機関として、これからも住民の皆さまの健康管理、疾病予防に役立てるよう努めてまいります。



講習のご案内

・救急法基礎・救急員養成講習

平成23年3月5日(土)・6日(日)・12日(土)の3日間

時間：9:30～17:30(初日のみ13:00～17:30)

教材費：1,500円

・科目別講習

(①から③の科目を選択して受講できます)

平成23年3月22日(火)

①こどもに起こりやすい事故の予防と手当について

10:00～12:00

②こどもの一次救命処置

13:00～15:00

③骨折の手当と搬送法

15:30～17:30

教材費：①100円 ②300円 ③300円

・幼児安全法支援員資格継続研修

平成23年3月26日(土)

時間：13:00～17:30

・赤十字救急法フォローアップ講習

(①から③の科目を選択して受講できます)

※赤十字救急法救急員を対象とします。

平成23年3月27日(日)

①一次救命処置 10:00～12:00

②きずの手当 13:00～15:00

③骨折の手当 15:30～17:30

教材費：①一次救命処置 200円

②きずの手当 200円

③骨折の手当 200円

対象者：赤十字救急法救急員

講習開催場所についてはいずれも日本赤十字社兵庫県支部です。詳細及びその他の講習についてはホームページ <http://www.hyogo.jrc.or.jp/> をご覧ください。

お問合せ先：救護福祉課講習係

電話：078-241-1499 FAX：078-241-6990

～自立新時代に向かって～

新年あけましておめでとうございます。

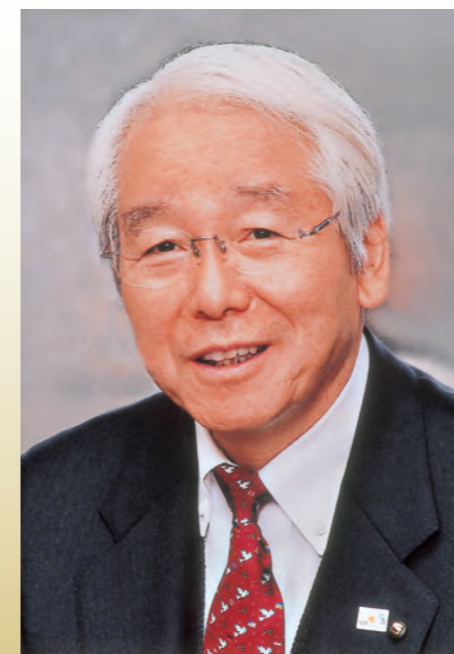
21世紀の幕開けから10年、新しい社会のしくみづくりが模索されています。デフレ経済下で経済雇用の停滞が長く続き、先行きに対する閉塞感が漂っています。まずはデフレ円高対策を適切に実行し、あわせて社会的枠組を再構築して将来不安を払拭するとともに、多様な地域が個性を發揮して元気な地域づくりを進めなければなりません。そのためにも、短期、中長期を見極め、直面する課題を明らかにし、将来ビジョンを描き、シナリオを準備して力強く実行する必要があります。

第1は、経済雇用対策。景気低迷と急速な円高を克服し、頑張る企業を応援します。また、整備が進む京速コンピュータ、X線自由電子レーザーなどの科学技術基盤と企業立地の優位性を生かし、兵庫産業の競争力を高めます。

第2は、安全安心で質の高い生活環境。風水害や地震に強い県土づくり、地域医療や健康福祉の基盤づくり、充実した子育て環境づくり、街の賑わいづくりなど、生活の豊かさを確保します。また、山陰海岸ジオパークをはじめ、広い県土の豊かな自然と人とのふれあいを生かし、環境優先兵庫の魅力を高めます。

第3は、自立新時代への前進。関西広域連合発足を契機とした関西の自立、行財政構造改革と長期ビジョンの推進による兵庫の自立、人と社会の協働による地域の自立をめざします。

自ら考え行動する人々が拓く新時代に向かって、変化に負けない元気な兵庫を創っていきましょう。



支部長/兵庫県知事

井戸敏三

新しい 自立の時代 創らんと 人と地域が 絆基いに

特集

募金活動



NHK海外たすけあい

～ご協力ありがとうございました～

8,682,628円もの義援金をお寄せいただきました



12月27日、井戸支部長（県知事）へ義援金を手渡す北野兵庫県赤十字奉仕団委員長（左側）

《内訳》

受付窓口	金額（円）
赤十字奉仕団	4,434,500
日赤有功会	2,551,000
特別赤十字奉仕団	123,000
青少年赤十字加盟校	238,950
街頭募金	286,707
兵庫県支部	34,000
NHK	989,120
日赤地区・分区、その他	25,351
合計	8,682,628

（平成22年12月27日現在）

近年、世界各地で大規模自然災害が多発しています。

日本赤十字社では毎年12月にNHKと共同で、これら自然災害や武力紛争などによる世界各地の犠牲者への医療や衣食住の支援（緊急救援・復興支援事業）、並びに発展途上国赤十字社の保健衛生、防災、教育等の支援（開発協力）を目的に「NHK海外たすけあいキャンペーン」を展開しています。

兵庫県支部では各方面の皆さまからのご協力と、赤十字ボランティアの皆さまのご協力による募金活動を通じて、多くの皆さまから温かいご支援ご協力をいただくことができました。ありがとうございました。

お寄せいただきました義援金は、世界186カ国に広がる赤十字のネットワークを活かして、世界各地の災害や紛争の被災者の支援をはじめ、地域の基盤作りなどの地元根付いた息の長い支援のため有効に活用させていただきます。

募金活動



私たちの想い、伝わってと願って

～兵庫県立明石城西高等学校が募金活動～

兵庫県立明石城西高等学校では、12月18日（土）19日（日）の2日間、JR明石駅周辺6カ所で日本赤十字社の活動資金への募集を目的に、街頭募金活動を行いました。この募金活動は、昨年に続いて3回目。この2日間で生徒会、厚生委員、有志などの皆さんが参加し、赤十字の活動紹介のビラや冊子を配布するとともに、音楽部によるチャリティーライブ、手作りのPRパネルや募金箱を手に募金への協力を呼びかけました。当日は寒さが和らいだものやはり師走。日陰で活動している生徒は頬が紅潮していました。その中で、参加した生徒からは、「この募金活動を通じて人に伝える難しさを学んだ。」「募金をしてくださった人から「お疲れ様」と声をかけられて、やりがいを感じた。」「人の優しさや善意を感じた。」「地域の人の温かさを知りました。」などの感想が聞かれました。



Close-up 赤十字

支援事業



地域住民が自分たちで健康を守れるように

～フィリピン保健医療支援事業～

神戸赤十字病院 看護師 森 智恵子

2005年（平成17年）からフィリピン共和国キリノ州住民の健康と生活状態を改善する目的で保健医療支援事業が行われており、私は徳島赤十字病院の鈴江知子さんと共に2010年（平成22年）6月から12月まで事業に参加しました。

キリノ州は首都から車で8～9時間かかる山奥で、多くの村が保健施設や医療従事者の不足に加え、貧困が原因で感染症や伝染病の罹患率が高い状況にあります。そこで、大切にしたいのは「地域住民が自らの健康を守ることができるよう支援する」ことでした。

主要な活動は①地域保健ボランティアの育成です。医療従事者でない方達が家庭訪問や健康教育、助産師の介助等を行いますので、正確な知識の普及や技術が維持できるように定期的にバイタルサインの測定技術をチェックしたり、講習会を行いました。②村落保健所の建設。これは健康教育や出産費用が払えない方のお産、医師の巡回診療に使用されています。③給水設備構築。水源が遠くて多くの時間と労力を費やしていた住民は、容易に水を手に入れることができるようになりました。④トイレ資材の配布。トイレのない家庭が半数以上を占める村もあります。汚物が感染源とならぬように住民が資材を使ってトイレをつくります。

何故、不便な地域に住み続けるのかと思っていましたが、長年営んできた暮らしには、親類や友人、農地や家畜・家などの財産があり、簡単に手放せるものではないと気付きました。また、活動する中で住民の生活と背景を理解することが大切なのだと感じました。

平成22年10月の台風13号でフィリピンは大きな被害を受けました。被害が大きかったイザベラ州イラガン市を視察し、被害状況の調査と救援物資の配布活動にも参加しました。

多くのボランティアが自身も被災者でありながら懸命に活動しており献身的な姿勢ややさしい笑顔に心を打たれました。



被災者に防水シートを手渡す森看護師



村の保健所で最初に誕生した赤ちゃん（中央：森看護師）

Seminar/Guidance

研修会



万一の災害に備えて

～赤十字防災ボランティア実践研修会～

万一、災害が発生した場合には、特別赤十字奉仕団員（青年赤十字奉仕団員141人、特殊赤十字奉仕団員424人）及び個人登録の防災ボランティア（46人）は、赤十字防災ボランティアとして支部が行なう災害救護活動への支援を行なっていただいています。そこで、平成22年12月11日（土）その支援活動を行なうための技術やノウハウを平時から身につけていただくことを目的に、平成22年度第2回赤十字防災ボランティア実践研修会を開催しました。このたびの研修会では「赤十字防災ボランティアセンターの運用」をテーマとして、赤十字防災ボランティアリーダー・サブリーダー（9人）が中心となり、参加した赤十字防災ボランティア（21人）が誘導係、登録受付係、ニーズ調査兼派遣調整係、派遣係に分かれて実働研修を行なうとともに、「赤十字防災ボランティアセンター・マニュアル」の検証を行ないました。この研修会を通じてボランティアセンターの運営に対する課題や問題点が明らかになり、今後、マニュアルの改訂なども含め、より実践的な運用ができるよう研修を重ねていくこととしています。



ボランティア登録を行なう訓練